



褒章受章の伝達を受けた玉岡さん(右)

同会は昨年11月、創立40周年と持経宿改築竣工(しゅんこう)、玉岡さんの緑綬褒章をそれぞれ記念しての祝賀会を開催した。

東京での褒章授章式に出席できなかった玉岡さんには、関東支那振興局の土井敏弘局長から表彰状が伝達された。

玉岡さんは「山は神、人は宝」という趣旨です。っと活動してきた。大勢の皆さん

創立40周年記念式典で祝う

前会長・玉岡さんの緑綬褒章

の賛同を得て、協力もしていただき、ここまでできた。今回、緑綬褒章をいただいたことをうれしく思い、感謝している。30年来の努力が認められたわけだが、皆さんには30年と言わず、50年頑張ってもらいたい」とあいさつした。

川島功会長は「これまでの活動は、自治体、修験寺院、修験団体、賛同友好者の皆さんのご支援と協力、山彦ぐるーぷの先輩諸兄が玉岡さんのもとに結集し、汗水流してボランティア活動した成果。昨年、持経宿は築後35年が経過したことから、皆さんの浄財を募って改築した。太古ノ辻の記念の道標は30年経過して傷みが激しく、昨年9月19日に更新した。この日は名誉会長の塩川正十郎先生が93歳でご逝去した日。物心両面でご支援助いたいただいた先生のご冥福を祈る。これからも南奥駆道の改修、

山小屋の維持管理活動に一層邁進したい」と述べた。来賓として出席した田岡実千代新宮市長は「登山愛好者の会として結成以降、山々を歩きながら美化活動に努めていただいている素晴らしい団体。その中でも草に閉ざされ、通行不可能であった修験道『大峯奥駆道』の再興に整備し、その中継地として持経宿を作られ、今日までその維持管理にご尽力されている。現在、大峯奥駆道は世界遺産に登録され、当地域のみならず世界の宝となっており、行政としても、皆さんが守り続けられてきた世界に誇る宝の魅力を多くの人に発信し、当地域の活性化につなげていきたい」と述べた。